

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	人形浄瑠璃
----	------	----	-------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	コウエキザイダンホウジンエドイトアヤツリニンギョウユウキザ		団体ウェブサイトURL	
	公益財団法人江戸糸あやつり人形結城座		http://youkiza.jp/	
代表者職・氏名	代表理事・田中克昌			
制作団体所在地	〒	184-0015	最寄り駅(バス停)	武蔵小金井(中大附属高校)
	東京都小金井市貫井北町3-18-2			
電話番号	042-322-9750			
ふりがな 公演団体名	エドイトアヤツリニンギョウユウキザ		団体ウェブサイトURL	
	江戸糸あやつり人形結城座		http://youkiza.jp/	
代表者職・氏名	座長・十三代目結城孫三郎			
公演団体所在地	〒	制作団体に同じ	最寄り駅(バス停)	制作団体に同じ
	制作団体に同じ			
制作団体 設立年月	2009年12月			
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	代表理事 田中克昌 理事 ボイド眞理子、葛西聖司、古谷伸太郎 評議員 桂真菜、犬丸治、吉田誠男		演技部 8名 美術部 2名 制作部 5名 加入条件:古典と新作の両輪をもって江戸糸あやつり人形芝居の在り方を追求し、身をもって行動できる者。	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名		小立廉、前田玲衣
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名		和田光
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	seisaku@youkiza.jp			

<p>制作団体沿革</p>	<p>江戸時代の寛永12年(1635年)に初代結城孫三郎が創設。現在の十三代目結城孫三郎まで388年の歴史を持ち、「国の記録選択無形民俗文化財」及び「東京都の無形文化財」に指定されている伝統ある糸あやつり人形劇団。</p> <p>現在では古典の継承発展のみならず、新作、写し絵など公演活動の場を拡げ、これらに対して、芸術祭文部大臣賞、東京都知事賞など数々の栄誉を受ける。</p> <p>また海外公演や国際共同制作も積極的に行っており、ベオグラード国際演劇祭では「マクベス」で特別賞と自治体賞を受賞、日仏国際共同「屏風」では、パリの国立劇場コリヌ劇場を皮切りにヨーロッパ各地を6年間に渡り約50公演巡演し、2007年アビニオン演劇祭のオープニングに招聘されるなど、国内外において高く評価されている。(2007年アビニオンにおいては、古典公演「綱館、本朝廿四孝」も同時に招聘され、結城座の古典と新作両方の活動に高い評価を得た。)</p> <p>平成21年12月18日に公益財団法人の認定を受ける。</p> <p>令和3年6月、十二代目結城孫三郎の長男、結城数馬が十三代目結城孫三郎を襲名し、新しい時代に向けて歩を進めつつある。十二代目は三代目両川船遊となる。</p> <p>盛岡で江戸糸あやつり人形子ども劇団の数年後の創立を目指し、令和3年から継続事業として、盛岡の小学3年生～高校生を対象に、ワークショップを実施し、成果発表として地元の作家の作・演出で盛岡にて上演した。</p> <p>また、十二代目結城孫三郎(現三代目両川船遊)より直接、手板と人形の胴の製作、衣裳を着せて人形が動くよう糸の付け方の指導を行う。外部団体へのこうした指導は結城座としても初の試みとなる。</p> <p>※別添盛岡ワークショップ あり</p>
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>戦後、昭和21年より学校視聴覚教育のため日本の劇団で初の小中学校巡演を開始し、青少年育成活動を積極的に行ってきました。伝統芸能の古典演目を中心に、学校及び会館にて1万回以上の公演実績があります。</p> <p>学校公演としては、平成20年度小金井市内小学校6校巡演。平成21年、22年度と小金井市において小、中学生に20回にわたる江戸糸あやつり人形の体験学習授業を実施、生徒たちによる糸あやつり人形発表会開催を指導。その他令和3年までに、桐蔭学園初等部・中等部、千葉日本大学付属小学校、文京区第五中学校、高松市内小学校2公演、浦和ルーテル学院小・中・高、千葉県鎌ヶ谷小学校、さいたま市片柳小学校、恵泉学園中等部、昭和女子大学、東京学芸大学、女子美術大学など。人形の解説と体験付きの、古典演目の上演が中心。</p> <p>平成 6年 「三番叟」「弥次喜多道中記」「杜子春」「寿獅子」「伊達娘恋緋鹿子」 2公演 「三番叟」「弥次喜多道中記」「杜子春」「寿獅子」「伊達娘恋緋鹿子」 5公演</p> <p>平成 7年 「オズの魔法使い」 4公演</p> <p>平成 8年 「三番叟」「証誠寺の狸ばやし」「寿獅子」「うさぎのおんがえし」 1公演 「三番叟」「弥次喜多道中記」「杜子春」「寿獅子」 1公演</p> <p>平成10年 「昭和怪盗伝」 1公演 / 古典 3公演</p> <p>平成11年 「三番叟」「証誠寺の狸ばやし」「寿獅子」「杜子春」2公演/「寿獅子」「オズの魔法使いたち」 2公演</p> <p>平成11年 「三番叟」「オズの魔法使いたち」1公演</p> <p>平成12年 古典公演 1公演</p> <p>平成14年 「文七元結」「寿獅子」 1公演</p> <p>平成15年 「伽羅先代萩」2公演/「三番叟」「弥次喜多道中記」「杜子春」「寿獅子」「証誠寺の狸ばやし」2公演</p> <p>平成16年 「三番叟」「証誠寺の狸ばやし」他 7公演</p> <p>平成18年 「寿獅子」「弥次喜多道中記」「杜子春」 1公演 「宮沢賢治の写し絵劇場～注文の多い料理店～」 6公演</p> <p>平成19年 「三番叟」「証誠寺の狸ばやし」「寿獅子」「杜子春」 1公演 「宮沢賢治の写し絵劇場～注文の多い料理店～」解説、体験付 4公演</p> <p>平成20年 「三番叟」「証誠寺の狸ばやし」「寿獅子」「杜子春」5公演/「糸あやつり人形の世界」 1公演 「宮沢賢治の写し絵劇場～注文の多い料理店～」解説、体験付 4公演</p> <p>平成29年 親子で楽しむ 人形×リーディング「あらしのよるに」 1公演(自主公演) 「三番叟」「寿獅子」 3公演 「伊達娘恋緋鹿子」「伽羅先代萩」「本朝二十四孝」 2公演 「文七元結」 3公演</p> <p>平成30年 「千人塚」「寿獅子」 4公演</p> <p>令和2年 「東海道中膝栗毛」(新内語りでの上演は2～30年振り)「本朝廿四孝」 7公演(自主公演)</p> <p>令和4年 「寿獅子」「伊達娘恋緋鹿子」「東海道中膝栗毛」 7公演(自主公演)</p>

<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年 小金井市 小学校 3校(通常クラスとの合同にて、体験と鑑賞実施) ・平成30年 北海道 札幌市 豊成養護学校 1校 ・令和元年 東京都立墨東特別支援学校 本校 小学部・中高部/病院内分校 3校(計5公演) ※都立東部療育センター、国立がん研究センター中央病院、聖路加国際病院 ・令和2年 東京都立足立特別支援学校 1校(計3ステージ) ・令和3年 東京都立調布特別支援学校 1校(体験) 			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/8SLe6hgkkek (限定公開につき、取扱にご注意ください)</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p>なし</p>	
		<p>PW:</p>	<p>なし</p>	

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 江戸糸あやつり人形結城座】

対象	小学生(低学年)	-	
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	江戸糸あやつり人形の世界 ～江戸文化を楽しもう！～		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>人形の解説(15分) 『寿獅子』(5分) 『伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の場』(15分) 義太夫 故竹本素京(録音) 休憩15分 『東海道中膝栗毛～赤坂並木から卯塔場まで～』(40分) 原作 十返舎一九／作詞・作曲 富士松魯中(新内節)／生の弾き語り 新内多賀太夫 構成・監修 三代目河川船遊</p> <p>※幕間ごとに、演目の解説を入れます。 ※人形の解説では、日本独自の四角い手板(操作板)をお見せし、実際に人形を見せながら、基本の17本の糸が手板と人形のどこについていて、それぞれ何の糸なのか動かしながら分かりやすく説明します。</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名 寿獅子、伊達娘恋緋鹿子、東海道中膝栗毛
	該当事項がある場合	権利者名 公益財団法人江戸糸あやつり人形結城座	許諾確認状況 内部保有
演目概要	<p>●『寿獅子』 結城座に最も古くから伝わる演目の一つ。厄を払い、福を呼び込むといわれ、お正月や祭りで舞われる獅子舞。のどかな獅子、蝶を追う獅子、逃げられて怒り狂う獅子など様々な舞をお楽しみいただけます。</p> <p>●『伊達娘(だてむすめ)恋緋鹿子(このひがのこ) 火の見櫓(ひのみやぐら)の場』 江戸時代の実話をもとに作られた名作芝居、通称「八百屋お七」は人形浄瑠璃として江戸の庶民に人気を博しました。(あらすじ) 八百屋の娘お七の恋人吉三郎は武家勤めで、主人が紛失した名刀「天国(あまくに)の剣(つるぎ)」のために、追い腹を切る(主人の後を追って切腹すること)ことに。お七は吉三郎の命を救うため、囚らずも手にした天国の剣を手渡そうと、火刑を覚悟で法を犯し、火事を知らせる火の見櫓の太鼓を打ち鳴らして閉まっていた町々の木戸を開かせます。雪の夜の美しくも哀しい名場面、美しい女形とその一途な思いに心打たれる作品です。</p> <p>結城座では九代目結城孫三郎以降、代々の孫三郎の十八番の当たり狂言として継承され、人気を得ています。今回は、「天国の剣」を盗んだ湯灌場吉三と弁長が争う場面も上演いたします。なお、義太夫は故竹本素京の語り(録音)で、太夫と三味線弾きは人形で登場します。</p> <p>●『東海道中膝栗毛～赤坂並木から卯塔場まで～』 江戸時代大ベストセラーとなった十返舎一九の滑稽本を原典に富士松魯中が新内節に脚色して人気を博し、人形芝居の演目にもなりました。現在でも「弥次さん喜多さん」として人気が高く、映画やドラマでも親しまれています。(あらすじ) 江戸をヒョンなことから食いつめた弥次郎兵衛と喜多八は、上方に向かって呑気な旅を続けている。赤坂並木(東海道五十三次の36番目の宿場「赤坂宿」/現在の愛知県豊川市赤坂町)を通りかかると、酒徳利を下げた子供が通る。これの一つ目小僧と間違えて、こらしめようと打ち叩いていると、その親爺が現れ「わが子に何をしやがる」と弥次郎兵衛の首をしめ、弥次郎兵衛は気絶をしてしまう。親爺は身ぐるみをはぎ、そばにあった経帷子を着せて立去る。息を吹き返した弥次郎兵衛は自分が死んだと思い、嘆き悲しむのであった。</p> <p>結城座を代表する古典演目の一つで、江戸時代と同じく、軽妙洒脱な生の新内弾き語りによせて、江戸糸あやつり人形の繊細な技、人形ならではの仕掛け、江戸前の丁々発止の台詞のかけあい等をお楽しみいただけます。 江戸の市井の様子、江戸庶民の生活風俗が描かれており、江戸文化を象徴する名作です。 2020年の自主公演「孫三郎 第一回古典小劇場」にて、新内節による30年振りの復活公演となりました。生の新内弾き語りによる江戸時代当時の上演スタイルに、東京学芸大学の協力を得て歌川広重の「東海道五十三次」を編集したデジタル映像を舞台に投影し臨場感を高めた演出を加え、若者にも「古典がこんなにおもしろい」と評判を呼びました。 以後現在まで、文化芸術による子供育成総合事業にて北海道・東北の小中学校を含め多くの地域で巡演しました。</p>		

<p>演目選択理由</p>	<p>結城座独自の、台詞を言いながらの人形あやつりの技芸を堪能できる代表的な古典演目の中から、人形の機構や手板の種類、演出などが三者三様の3演目を集めました。初めて伝統芸能に触れる子供たちでも、人形の違いや仕掛けに自分で気付くことができ、楽しみながら学べる演目となっています。</p> <p>●『寿獅子』 ・十三代目結城孫三郎の糸さばきで、伝統の技芸を間近に、楽しくご覧いただける演目です。 ・おめでたい行事でおなじみの獅子舞ですが、糸あやつりならではのダイナミックな動きと、一人の人形遣いが、獅子頭と幌をかぶった2人の獅子遣いの3体分を扱う、超絶技巧ともいえる遣い方が見所です。</p> <p>・通常の下から支えて持つ四角い手板とは異なり、古くから四つ足の動物に限って用いられた棒を組み合わせた手板を使用し、左手で上から持ってあやつることで、通常のあやつり方とは一味違う仕組みや表現をお楽しみいただけます。</p> <p>●『伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の場』 ・孫三郎十八番の美しい女形をご覧いただける演目です。 ・男形の人形と女形の人形では機構から異なりますが、女形では、提灯胴というしなやかに動く胴を使った所作や、人形衣裳の着物の裾さばきが見所です。冒頭の立ち回りをする人形と見比べると動かし方の違いが良く分かり、伝統の技芸と工夫を感じていただけます。</p> <p>・物語のクライマックスで「肌脱ぎ」という着物の袖から片腕を引き抜き、右上半身を濡袴姿で太鼓を打ち鳴らすという伝統的な古典の所作をご覧いただけます。糸あやつり人形で「肌脱ぎ」をするには特別な仕掛けと技量が必要で、人形がひとりで脱いだかのような驚きも子供たちの創造性への刺激となると考えます。</p> <p>●『東海道中膝栗毛 ～赤坂並木から卵塔場まで～』 ・生の新内弾語りが加わり、江戸の当時の上演形態でレパートリー化した本格派の古典演目ですが、江戸庶民の明るい雰囲気やコミカルな掛け合いや人形ならではの仕掛けで演出され、子供たちが楽しく日本の伝統文化に触れることが出来る演目です。 ・中学校の授業などでも取り上げられる『東海道中膝栗毛』の一部を、江戸情緒溢れる江戸糸あやつり人形芝居で鑑賞し、学びを深めることが期待できます。 ・浮世絵のデジタル映像が、江戸の文化を壊すことなく臨場感を高め、古典の面白さをより実感して頂けます。日本の伝統文化が現代の技術と融合して引き継がれている様子を、子供たちに間近でご覧いただきたいと思ひます。</p>																			
<p>児童・生徒の共演、参加又は体験の形態</p>	<p>●ワークショップ体験形態 ・江戸の知恵と文化が詰まった江戸糸あやつり人形の歴史と、人形の機構を解説します。 ・事前に子供たちの身長に合わせて製作した人形を、実際に持って体験して頂きます。 ・人形遣いが数人に対して一人ずつ付き、丁寧に「手板(ていた)」(操作板)の持ち方や、糸を使った人形のあやつり方を教えます。また、台詞を言いながら人形をあやつることや、人形を通した簡単なコミュニケーションにも挑戦していただけます。 ・順番に全員が人形に触れ、また友達があやつる様子も鑑賞して、興味を一層深められるよう働きかけます。 ※30～40人が望ましいですが、多人数となる場合はご相談頂き、グループに分かれるなどして実施致します。 (共演に向けて) ・WS参加者全員で旅人などの台詞の稽古を行います。 ・新内多賀太夫氏に、子供たちとのワークショップと本公演「東海道中膝栗毛」での共演(20人程度)のための楽曲の作詞作曲をお願いしました。三味線のリズムに初めて触れる子供たちでも馴染みやすいよう作詞作曲された楽曲を、歌唱グループと、身近な楽器(カステネット、タンバリンなど)を使った演奏グループに分かれて、三味線の音(録音)に合わせて歌唱・演奏する練習を行います。公演当日のリハーサルでは、新内多賀太夫氏より直接指導して頂く時間を設け、生の三味線に合わせて歌唱・演奏します。 ・歌詞の一部には実施場所の地名を取り入れるなどして、子供たちが身近に感じる工夫をしています。</p> <p>●共演形態 ・事前のワークショップ参加者の中から20～30人の子供たちに、黒衣(※)を着用して本公演「東海道中膝栗毛」に参加して頂きます。冒頭の東海道中を行き交う旅人役(2人)、村人役(1人)、村人の子ども役(5人)と、10～20人の子供たちに三味線の生演奏に乗せた歌と演奏で参加して頂きます。 ・結城座独自の、台詞を言いながら人形を遣い演じるという表現方法を体験し公演に参加していただけます。 ・公演冒頭の人形解説と幕間の演目解説で、ワークショップ内容も振り返りながら鑑賞します。</p> <p>※黒衣(くろご)—古くから日本の伝統芸能で広く用いられる衣裳。結城座では人形が引き立つように人形遣いが着用します。</p>																			
<p>出演者</p>	<p>No.2 別添出演者詳細 あり</p> <p>人形遣い 十三代目 結城孫三郎 三代目 両川船遊(十二代目結城孫三郎) 結城育子 湯本アキ 小貫泰明 大浦恵実</p> <p>新内多賀太夫(弾き語り)</p>																			
<p>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む</p>	<p>運搬</p> <table border="1"> <tr> <td>出演者:</td> <td>7</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>スタッフ:</td> <td>9</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>合計:</td> <td>16</td> <td>名</td> </tr> </table>	出演者:	7	名	スタッフ:	9	名	合計:	16	名	<table border="1"> <tr> <td>積載量:</td> <td>2</td> <td>t</td> </tr> <tr> <td>車長:</td> <td>6.5</td> <td>m</td> </tr> <tr> <td>台数:</td> <td>1</td> <td>台</td> </tr> </table>	積載量:	2	t	車長:	6.5	m	台数:	1	台
出演者:	7	名																		
スタッフ:	9	名																		
合計:	16	名																		
積載量:	2	t																		
車長:	6.5	m																		
台数:	1	台																		

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8:00:00	8:00～12:00	13:30～15:00	15分	15:00～17:00	17時00分
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	0日	5日	0日	0日	17日	
	11月	12月	1月	計	46日	
	10日	7日	7日			
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	20～30人
		鑑賞人数目安	20～400人程度

人形の大きさは60cm程度と小さく、後方の席の児童・生徒は多少見づらくなってしまいます。より良い環境で鑑賞していただくために、前方の席の子供たちは座面高の低い椅子に座っていただくなどのご協力をお願いする場合があります。
また、糸あやつり人形の繊細な動きや人形芝居の醍醐味を存分に楽しんでいただくために、1回の鑑賞人数が200名を超える場合は2回公演をお勧めしております(必須ではありません)。
舞台に必要な広さ:幅8～10m、奥行き:5m 舞台高:1m (体育館の舞台の使用を想定しています。左記より小さな舞台でも実施可能です。ご相談ください)



図1 子供たちとの練習風景
「東海道中膝栗毛～赤坂並木から卵塔場まで～」の冒頭の旅人・村人・村の子どもたちの役と、歌/演奏で参加します。本番では人形遣いと同じ黒衣を着用します。



図2 「東海道中膝栗毛～赤坂並木から卵塔場まで～」舞台写真
実際に学校の体育館の舞台上で照明・音響・映像機材を設置した様子。舞台上で人形を遣う二人(左手前)と、三味線の生演奏(舞台右奥)と、鑑賞する様子(右手前)。
舞台背景のスクリーンに映像を投影し、臨場感・没入感を高めます。

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

【各演目の演出/ビジュアルイメージ】 ※全て図2同様、体育館舞台上で上演



左から、『寿獅子』/『伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の場』/『東海道中膝栗毛～赤坂並木から卵塔場まで～』

【公演団体名 江戸糸あやつり人形結城座】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	一回30～40名程度
<p style="text-align: center;">ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>内容:約90分</p> <p>「江戸糸あやつり人形」についての歴史や基本構造、操作法などを解説後、体験していただきます。</p> <p>①日本独自の四角い手板(操作板)をお見せし、実際に人形を見せながら、基本の17本の糸が手板と人形のどこについていて、それぞれ何の糸なのか動かしながら説明します。 また人形の構造をより理解して頂くため、人形の裸の胴をお見せし、男と女の人形の胴の違いや、関節部分などの細かな所作を可能にする構造をご覧頂きます。</p> <p>②事前に子供たちの身長に合わせて製作した人形を使用し、左手で手板(操作板)を持ち、右手で各糸をあやつる体験をして頂きます。 ・手板(操作板)を正しい持ち方で持つ ・まず、膝の糸を持つ ・膝の糸を遣って足踏みをする ・足踏みをしながら前進してみる ・手の糸を遣って自分の人形と友達の人形で握手をする、又は遣う糸を組み合わせ、鑑賞している友達の方を向いて手を振ってみるなど、人形を通して相手がいることを意識した簡単なコミュニケーションを取る。</p> <p>③子供たち同士で簡単な人形芝居をして、台詞を言いながらの人形あやつりに挑戦します。公演で共演する実際の台詞もワークショップ参加者全員で稽古します。</p> <p>※②③とも、順番に全員が体験します。また、友達があやつる様子も鑑賞し、理解と興味を一層深められるようにはたらきかけます。</p> <p>④新内多賀太夫氏に、子供たちとのワークショップと本公演「東海道中膝栗毛」での共演(20人程度)のための楽曲の作詞作曲をお願いしました。三味線のリズムに初めて触れる子供たちでも馴染みやすいよう作詞作曲された楽曲を、歌唱グループと、身近な楽器を使った演奏グループに分かれて、三味線の音(録音)にのせて歌唱・演奏する練習を行います。 歌詞の一部には実施場所の地名を取り入れるなどして、子供たちが身近に感じる工夫をしています。 ※公演当日のリハーサルでは、新内多賀太夫氏より直接楽曲指導して頂く時間を設け、生の三味線とコーポレーションします。 ※普段子供たちが授業などで身近に接している楽器(カステネット、タンバリンなど)が借用可能であればそちらを使わせて頂き、またご負担にならない範囲で音楽の先生などにもご協力頂けましたら、より子供たちにとって馴染みやすいかと存じます。</p>		
<p style="text-align: center;">ワークショップの ねらい</p>	<p>日本の伝統文化の一つである江戸糸あやつり人形について、実際に人形に触れながら理解して頂き、人形の動きや仕掛けの面白さを入口に、388年の知恵と工夫がつまった人形芝居の魅力を伝えます。また古典芝居を構成する三味線のリズムも合わせて体験し、日本の文化に楽しく触れながら、興味を深めるきっかけを作ります。</p> <p>・普段無意識に私たちが行っている、日本人の生活文化に根差した動作(正座やお辞儀など)を人形で表現できるよう、長い歴史の中で培ってきた技芸を学び、さらに自分でも人形を動かしてみることで、日本の文化を身近に感じることができます。</p> <p>・これまでの経験上、子供たちが自分で人形を動かしてみる中で、「こういう動きはできるかな」「こんなことをやってみたい!」といったように、人形を通して表現することに対して自発的な取り組みが見受けられます。1人で1体の人形を台詞を言いながらあやつる、結城座独自の表現方法を通して、子どもたちの豊かな自己表現力を育む機会となります。</p> <p>・共演に向けた台詞も全員で練習しますが、舞台上での立ち位置などを意識して、子供たち同士息を合わせて台詞を練習する中で、生徒間のコミュニケーションを深めながら、舞台芸術に親しむ機会となります。</p> <p>・三味線にのせて歌唱・演奏することで演目の江戸の世界観や文化を楽しく体験し、鑑賞への理解を深めます。</p>		

その他ワークショップに
関する特記事項等



講師を囲む形の半円形、または二列
～三列横隊で座るのが望ましいです。



慣れてくると、行進や握手など様々な遣い方に挑
戦できます。※WSで舞台は使用しません。

本事業への申請理由

【公演団体名 江戸糸あやつり人形結城座 】

①本事業に対する取り組み姿勢

江戸糸あやつり人形や古典芝居に初めて出会う子供たちが、人形の動きや仕掛けの面白さ、馴染みやすい歌や身近な楽器での演奏を入口に、日本の文化を楽しく体験し、より身近に感じることが出来る機会を提供します。

その上で感受性豊かな子供たちに伝統の技芸を間近でお見せし、ワークショップでの体験を振り返って自分で様々なことに気づいて考えながら鑑賞できる機会にしたいと考えます。

日本の伝統文化の一つである江戸糸あやつり人形を、より多くの子供たちに伝えることを積み重ね、次世代へ伝統を継ぐ貴重な取り組みと考えております。

(1)本公演の演目について

結城座独自の、台詞を言いながらの人形あやつりの技芸を堪能できる代表的な古典演目の中から、人形の機構や手板の種類、演出などが三者三様の3演目を集めました。特に人形浄瑠璃の演目を取り入れた生の新内節にのせた弥次喜多のかけあいは、子供ながらに、まさに日本の伝統文化の醍醐味を感じて頂くことができます。

解説・ワークショップと合わせて、子供たちが人形の違いや仕掛けの工夫に自分で気づき、能動的に学ぶ機会にしたいと考えます。

(2)ワークショップについて

過去数回同演目にて巡回公演事業を行ってきましたが、人形を通して子供たち同士のコミュニケーションも深まり、感染症流行による人との対面の自粛などを経験した子供たちにとってもかけがえのない経験となっております。

またある学校では国語の時間に人形浄瑠璃について学習しており、子供たちからは、実際に見たいと思っていた古典の人形芝居を間近で体験・鑑賞できてとても感動した、との感想が寄せられました。教科書の知識を身をもって体験することで子供たちの日本の伝統文化への理解・関心が一層深まり、積極的に学習する姿勢の涵養にも繋げることが出来ると考えます。

(3)生徒との共演について

プロの人形遣いと同じ舞台に立ち挑戦する、または、友達の姿を鑑賞することで、より江戸糸あやつり人形の世界を体感していただく機会にしたいと考えます。

共演を通して、様々な人々が関わり一つの舞台が作られていくことを、子供たちが知る機会にもしたいと考えます。

また、学校巡回公演での新しい取り組みとして、ワークショップの充実と、より子供たちの立場に立った舞台共演の形を検討し、共演人数を増やして、新たに新内多賀太夫氏作詞・作曲の楽曲での参加を加えました。

2023年11月には、結城座が江戸時代に旗揚げした日本橋人形町にて、古典公演の上演依頼があり、新しく楽曲での参加を加えた同内容で小学生と共演の機会を設けました。企画・ワークショップ段階から地元の方にも大変好評で、全国のより多くの子供たちに、江戸文化に触れ、日本の伝統芸能への興味・関心を深めるきっかけとなる機会を提供できると考えております。

(4)特別支援学校等における取り組みについて

過去の特別支援学校等の公演・ワークショップでは、視力的に人形を見るのが難しいお子様や身体的に体験・鑑賞時に体を起こせないお子様でも、そのままの体勢で人形に触れてもらい、また、近くまで行って人形をあやつり、動く音を聞いて頂くなど、先生方と相談しながら臨機応変に対応しております。子供たちから自発的に触ろうと手を伸ばすなど、人形が生き生きと動く様子に興味を持って頂くことが多く、人形芝居や江戸文化の楽しさを体験して頂けると感じます。

本公演鑑賞では、デジタル映像を舞台背景に投影するため、会場を暗くします。完全な暗闇でなくても十分に鑑賞はしていただけますので、暗い所が苦手な子供たちや、その他にも大きな音や鑑賞時間などに制限がある場合など、子供たちの体と心の率直な現状をお聞かせいただき、事前準備と下見の段階で丁寧な相互のコミュニケーションを取って臨みたいと思っております。字幕対応は出来ておりませんが、進行役が舞台前であらすじを交えながら親しみやすく進めて参りますので、どのようなシーンかはわかりやすいかと存じます。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

・ワークショップや公演の事前の連絡、準備

事前に、本事業(本公演)の主旨や関係資料を、電話、メール、FAX、郵送等でお送り、お伝えします。ご要望があればSkypeやZOOM、Google Meet等ビデオ通話・ビデオ会議にも対応できます。お送りする関係資料は、団体(江戸糸あやつり人形)の歴史や技法に関する教育用資料、公演の写真、DVD、上演台本です。必要があれば、実際にスタッフがご説明に参ります。また、ワークショップと本公演での共演についての参考資料・動画を事前にお送りし、具体的なイメージを共有することが可能です。

・ワークショップ実施のための打合せ

上記の事前の資料説明をした上で、訪問時には、授業実施の前に先生と詳細な進行の打合せを行った上で、ワークショップを実施します。

・公演実施のための打合せ

舞台仕込みの図面資料、タイムスケジュール等の詳細を事前を送付、舞台が初めての方にもわかりやすく説明します。また、ワークショップ訪問時に、会場下見をし、会場の寸法の計測や、公演の仕込・撤去に要する時間、用意するものの打合せ・確認を行い、本番に向けての情報を共有します。

本番当日の子供たちとの共演リハーサルにおいては、主指導者が中心となって子供たちにわかりやすい言葉でお伝えし、リハーサルを実施し、安心して本番に臨みます。

リンク先	No.1	【公演団体名 江戸糸あやつり人形結城座 】
------	------	-----------------------

別添盛岡ワークショップ

令和3年にNPO法人いわてアートサポートセンターからの依頼を受け、盛岡で数年後の江戸糸あやつり人形子ども劇団の創立を目指し、継続事業として、小学3年生～高校生を対象にモデル上演と人形あやつり体験のWSを5回実施。(文化庁委託・子供たちのための伝統文化の体験機会回復事業「一日体験フェス」)

その際、両川船遊、結城育子を中心に直接子供たちを指導し、成果発表として「和の文化祭」で地元の作家の作・演出で、もりおか町家物語館 浜藤ホールで舞台を上演した。

2021年7月22日 伝統文化1日体験フェス(結城座のモデル上演『証城寺の狸ばやし』、人形あやつり体験)

2021年8月～2022年1月 伝統文化子供教室もりおか (5回実施)

2021年12月22日 子どもたちの和の文化祭 『カミがない和尚さん』(作・演出:藤原正教)

2022年7月16日 伝統文化1日体験フェス(結城座のモデル上演、人形あやつり体験)

2022年10月～11月 伝統文化子供教室in盛岡 (6回実施)

2022年11月26日 子どもたちの和の文化祭 岩手の民話『空飛ぶ船』(作・演出:藤原正教)

2023年7月15日 伝統文化1日体験フェス(結城座のモデル上演『三番叟』、人形あやつり体験)

2022年6月以降は手板及び人形の胴の製作について、2023年7月には糸の付け方なども十二代目結城孫三郎(現両川船遊)より直接指導を受けて、製作している。外部団体に対してのこうした指導は結城座としても初の試みとなる。2023年12月に第一回の公演を開催予定。

制作団体沿革



人形あやつり体験ワークショップの様子



2021年『カミがない和尚さん』本番舞台写真



2022年 岩手の民話『空飛ぶ船』本番舞台写真

リンク先	No.2	【公演団体名 江戸糸あやつり人形結城座】
	<p>別添出演者詳細</p> <p>江戸糸あやつり人形の世界 ～江戸文化を楽しもう！～ メンバー表【出演者 経歴】</p> <p>十三代目 結城孫三郎 (じゅうさんだいめ ゆうきまごさぶろう) 十二代目結城孫三郎の長男。1985年『夢童子 ゆめ草紙』『寿獅子』にて5歳で初舞台。『寿獅子』では故・結城雪斎(十代目孫三郎)と共に仔獅子を披露。 2005年『夢の浮橋～人形たちとの源氏物語～』(演出:佐藤信)以降、結城座公演のすべてに参加する。 2021年6月、「結城数馬改め十三代目結城孫三郎襲名披露公演」にて十三代目結城孫三郎を襲名。 【出演作品】 『伽羅先代萩』千松、『文七元結』藤助、甚八、『破れ傘長庵』(演出 山元清多)藤掛道之助 『乱歩・白昼夢』(作・演出 斎藤憐)「屋根裏の散歩者」郷田、『ドールズタウン』(作・演出 鄭義信)幸太、 『東海道中膝栗毛～赤坂並木から卵塔場まで～』弥次郎兵衛 ※2020年2月劇評にて賞賛される、『十一夜 あるいは星の輝く夜に』(翻案・演出:鄭義信)ヴァイオラ、セバスチャン(双子を1人2役で演じる)、 『伊達娘恋緋鹿子』八百屋お七、『変身』(脚本・演出:シライケイタ)グレゴール、『瞼の母』(脚本:ラサール石井、演出:流山児祥)番場の忠太郎、『荒御霊新田神徳』(原作:平賀源内 脚本・演出:加納幸和)新田義興・お舟 ほか</p> <p>三代目 両川船遊 (さんだいめ りょうかわせんゆう) 十二代目結城孫三郎。江戸糸あやつり人形結城座十代目結城孫三郎の次男として生まれ、4歳で初舞台。3歳から西川流宗家で日本舞踊を学び、11歳から武智鉄二主宰、武智歌舞伎に入門。武智鉄二による台詞稽古をはじめ、他 日本の古典芸能を網羅。能は観世栄夫、狂言は茂山千之丞の教えを受けながら、人形遣いの修行を重ね、72年写し絵家元三代目両川船遊を襲名。93年十二代目結城孫三郎を襲名。2021年6月、長男に結城孫三郎の名跡を譲り、両川船遊の一つ名前に戻る。芸歴は70年以上に及ぶ。 2021年 第42回松尾芸能賞 特別賞受賞。</p> <p><人材育成> 古典的な江戸糸あやつり人形芝居の継承はもちろん、国内外の演劇人たちとの芝居作りも意欲的に取り組む。また後進の人形遣いたちの育成にも力を注ぎ、04年より人形遣い入門塾を開始。以降ワークショップや長期的な塾という様々な形式を通じて広く江戸糸あやつり人形の普及・啓発に努める。 2004～2017 文化庁委託・人材育成事業 人形遣い体験入門研修「入門塾」 2013～2015 東京都・民俗芸能次世代育成事業 糸あやつり次世代育成事業伝承教室 都内小・中学生対象の体験会 2016～毎年 アーツカウンシル東京委託・子供のための伝統文化・芸能体験事業 都内小・中学生対象の体験会 2020～2022 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「人形と俳優のクロスオーバー」若手人形遣い、他ジャンルの表現者を対象とした育成事業</p> <p><江戸写し絵> また、江戸写し絵の継承者として、写し絵公演、人形との共演による写し絵公演など写し絵の分野においても活躍。代表作に、斎藤憐書き下ろしの『乱歩・白昼夢』、子供や親子対象に『宮沢賢治の写し絵劇場～注文の多い料理店～』がある。</p> <p><海外共同制作> 02年より日仏合作作品「屏風」(作/ジャン・ジュネ、演出/フレデリック・フィスバック)をフランス、日本、ヨーロッパ各地で巡演を重ね、07年第61回アヴィニオン演劇祭の開幕を飾る栄誉を得る。2010年にはフレデリック・フィスバックを再び演出に迎え『宦官提督の末裔』(作/クオ・パオ・クン、美術/ローラン・P・ベルジェ)を日本上演し、ザグレブ ユーロカズフェスティバル、スポレート 二つの世界フェスティバルに招聘される。2014年中国・朱鷺フェスティバルに招聘、上海戯劇学院にてワークショップを行う。2016年日越国際協働制作『野鴨中毒』を企画発案、主演。日本(東京)、ベトナム(ハノイ、ハイフォン)、ルーマニア(シビウ)で上演。</p> <p><代表作> ・古典 『伽羅先代萩』政岡 仁木弾正、『本朝廿四孝』八重垣姫、『網館』真柴 実ハ 茨木童子、『伊達娘恋緋鹿子』八百屋お七、『東海道中膝栗毛』喜多人、『壺坂霊験記』お里 ほか ・新作 『リチャード三世』リチャード王、『ペレアスとメリザンド』ペレアス、『ユビュ王』ユビュ、『夢の浮橋 人形たちとの源氏物語』光源氏 夕顔、『十一夜 あるいは星の輝く夜に』サー・トービー、『変身』(脚本・演出:シライケイタ)父親、『瞼の母』(脚本:ラサール石井、演出:流山児祥)突き膝の喜八・素盲の金五郎、『荒御霊新田神徳』(原作:平賀源内 脚本・演出:加納幸和)道念・頓兵衛 ほか</p>	

出演者

結城育子(ゆうきいくこ)

大学の頃より人形浄瑠璃に関心があり、1975年に結城座へ入座。1977年のヴォイツェクの子供役が初舞台。現在では雪齋に人形を、素京に義太夫の教えを受けた唯一の座員。江戸糸あやつり人形の技を受け継ぐ人形遣いとして、日本各地で人形体験ワークショップの講師を務めている。中堅として様々な分野で座を支える中心メンバーの一人。

【出演作品】

『新版歌祭文 野崎村の段』久松、『文七元結』お兼、『乱歩・白昼夢』(作・演出 斎藤憐)「芋虫」須永時子、『野鴨中毒』(脚本・演出 坂手洋二)ヴェルレ、『十一夜 あるいは星の輝く夜に』マルヴォーリオ、『変身』(脚本・演出:シライケイタ)母親、『瞼の母』(脚本:ラサール石井、演出:流山児祥)金町の半次郎・女中おふみ、『荒御霊新田神徳』(原作:平賀源内 脚本・演出:加納幸和)狭衣 ほか

湯本アキ(ゆもとあき)

2013年結城座江戸糸あやつり人形遣い入門塾塾生。2014年より研修生となり、人形遣いとして活躍。

【出演作品】

『文七元結』お久、『野鴨中毒』(脚本・演出 坂手洋二)イエンセン、ヘドヴィク、『ドールズタウン』かま、『十一夜 あるいは星の輝く夜に』サー・アンドルー、『変身』(脚本・演出:シライケイタ)グレーテ、『瞼の母』(脚本:ラサール石井、演出:流山児祥)おくまの娘お登世、『荒御霊新田神徳』(原作:平賀源内 脚本・演出:加納幸和)おりく ほか

小貫泰明(おぬきやすあき)

2016年～2017年結城座江戸糸あやつり人形遣い入門塾塾生。2017年より研修生となり、人形遣いとして活躍。

【出演作品】

『文七元結』遊女 よしの、『ドールズタウン』象、『東海道中膝栗毛～赤坂並木から卵塔場まで～』親父、『十一夜 あるいは星の輝く夜に』オリヴィア、『変身』(脚本・演出:シライケイタ)部長、『瞼の母』(脚本:ラサール石井、演出:流山児祥)宮の七五郎・鳥羽田要助、『荒御霊新田神徳』(原作:平賀源内 脚本・演出:加納幸和)五作 ほか

大浦恵実(おおうらえみ)

2015年～2017年結城座江戸糸あやつり人形遣い入門塾塾生。その後活動を続け、2020年より結城座研修生となる。

【出演作品】

『東海道中膝栗毛～赤坂並木から卵塔場まで～』介錯、『十一夜 あるいは星の輝く夜に』オーシーノー、『変身』(脚本・演出:シライケイタ)家政婦・女中、『瞼の母』(脚本:ラサール石井、演出:流山児祥)半次郎の妹おぬい、『荒御霊新田神徳』(原作:平賀源内 脚本・演出:加納幸和)傾城台 ほか

【弾き語り】

新内多賀太夫(しんないたがたゆう)

6歳より父の新内仲三郎(人間国宝)に師事。1992年より新内剛士の名で舞台活動を始める。

2011年、東京藝術大学大学院博士課程修了。

2017年4月に新内節の七代目富士元派家元、新内多賀太夫を襲名。

新内節の現代を支える存在であり、さらに将来を担うことが期待される。

歌舞伎や新派公演、国立劇場、三越劇場、紀尾井ホール主催公演等に出演。

【結城座での出演作品】

『東海道中膝栗毛～赤坂並木から卵塔場まで～』

<受賞歴>

2004年 東京藝術大学常英賞

2009年 第22回 財団法人清栄会 奨励賞

2013年 第33回 松尾芸能賞 新人賞

2014年 第68回 文化庁芸術祭賞 新人賞

2015年 第65回 芸術選奨 文部科学大臣新人賞

2018年 第22回 日本伝統文化振興財団賞